2023年10月1日　アクセス　（1976年11月10日第三種郵便物認可）　第561号

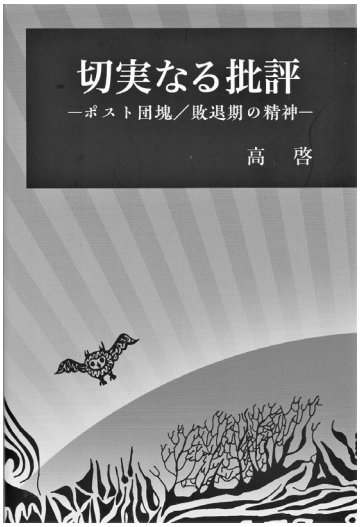
地方小出版 情報誌 アクセス

毎月1回　1日発行
購読料　定価150円（本体136円）
年間1,500円（税込み）
振替　00120-0-19017

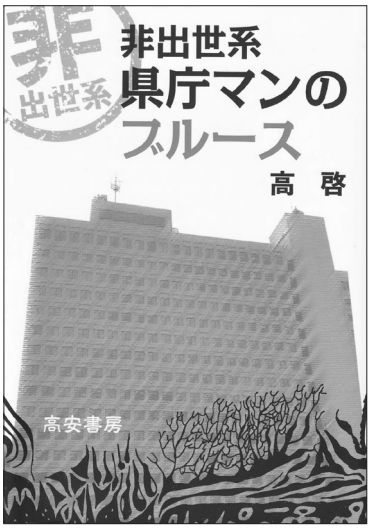
発行所　㈱地方・小出版流通センター
編集　アクセス編集委員会
〒162-0836　東京都新宿区南町20
TEL.03-3260-0355　FAX.03-3235-6182

いわゆる〝ひとり出版社〟「高安書房」
～出版界未経験者の立上げ記

文／高安書房　高橋啓二



「切実なる批評―ポスト団塊／敗退期の精神―」高啓著・高安書房刊／定価：本体2,400円＋税／ISBN978-4-9912743-1-2



「非出世系県庁マンのブルース」高啓著・高安書房刊／定価：本体1,800円＋税／ISBN978-4-9912743-0-5

ひたすら恐縮します……。

地方・小出版流通センターの岡安清さんから本誌に寄稿を依頼されて、正直戸惑った。筆者のようないい加減な気持ちで出版に手を出した（いや、未だ「出版に手を出した」などと言える状況でさえない）人間が、出版とその流通に人生を賭けている方々の眼にとまる媒体に駄文をものしてよいのか……と。

しかし、これから出版社を起そうかどうか迷っている方に、手探りの未経験者でも出版社を立ち上げていいんだ……という勇気（？）をもってもらえるように、「植木等」的無責任男の調子で立ち上げ記を書かせていただくことにした。

きっかけは書肆山田・大泉史世さんのご逝去

筆者は高啓（こうひらく）という筆名で詩や批評を書いてきた。これまで5冊の詩集を東京の「書肆山田」から上梓している。本誌の読者ならご存知と思うが、書肆山田は詩書の出版では名の通った老舗である。編集を担当していたのは大泉史世さん。優れた審美眼の持ち主で、彼女に出版を受諾してもらうこと自体がその作品が一定以上のレベルにあるという証明なのだった。

高啓は、一昨年の末、同社から文学・思想に関わる批評論集を出版していただきたいというメールを当該論集の目次と概要を添付してお送りし、昨年の春に「では原稿を送ってみてください」と大泉さんご自身からのお返事をいただいていた。早速原稿を送ったものの、暫くしても音沙汰がないのでメールで問い合わせた。するとパートナーの鈴木一民さんから返事が来て、大泉さんは進行癌の治療をしていたが、それを中断して編集に復帰し仕事中に倒れて３日後そのまま帰らぬ人となった、という。……この知らせに高啓は絶句した。（毎日新聞7月13日東京夕刊に池澤夏樹さんによる追悼文が掲載されている。）

書肆山田に送っていた原稿は、後述のとおり高安書房から高啓文学思想論集『切実なる批評―ポスト団塊／敗退期の精神―』という著作として出版される。

つまり、筆者が出版を手掛けることになったのは、書肆山田からの刊行が見込めないとなって狼狽し、気の迷いでいっそ自分で出版社を起そうと考えた……そういう短絡的な話なのである。もちろん、他の出版社に話を持ち込もうとも考えたが、筆者のような無名の人間の著作を刊行してくれそうな出版社で、筆者の希望に沿うところが見当たらなかったという事情も、あることはある。

第一作・高啓著『非出世系県庁マンのブルース』（2022年）出版の経緯

ところで、筆者は24歳から62歳まで38年間、山形県の一般行政職として働いていた。公務員というのはポストがすべてなのだが、この「ポストがすべて」という言葉には〝出世ができるか〟という意味に加えて、〝やり甲斐のある仕事の担当になれるか〟という意味もある。筆者は書名に「非出世系」と冠したとおり出世はできなかったが、幅広い分野でなかなか面白くかつは難儀な仕事をさせてもらった。こんなにストレスに堪えて頑張ったやつを冷遇しやがって！という卑し

き想いもこれあり、県と国の組織・上司・同僚・外部の関係者そして自分自身の表と裏、清と濁を赤裸々に語り、巷に溢れるこれまでの職業的自分史とは一線を画す作品をものしたいと考えていた。

ところで、ある読者からの手紙で、自分史の本は「饅頭本」と言われていると教えられた。饅頭とは葬式饅頭のことで、貰えばそれなりに嬉しいが買う気にはならないという意味だと。その手紙には、これはとにかく面白かった、これなら購入する値がある、という主旨のコメントが添えられていたのではあるが。

ということで、書肆山田から上記の論集刊行受諾の返事がくるまでの間、並行して『非出世系』刊行の準備も進めていた。もちろんこの手の本を書肆山田のような高尚な出版社に持ち込むことは憚られる。この俗物的な著作をどの出版社に頼んだらいいものかと思案していたわけである。

そんなある日、地元山形の書店で一冊の本に出合った。渡辺大輔著『さよならデパート』(スコップ出版)である。これは山形市にあった老舗デパート「大沼」の閉店に関わる著作であるが、山形県で唯一生き残っていたデパートがついに閉店した（それは全国各地で起きつつある現象でもある）という話題性もあって、販売面で県内において成功したばかりでなく、全国的にも無名の著者の本としてはスマッシュヒットしたという。

渡辺さんは自著を発行するために自身の出版社を起した。そうか、その手があったぞ……この本を手に取った時、「あ、この程度の本なら自分にも作れそう」と、前後の分別なくこう思ってしまったのである。

右も左も分からないところを助けていただき

「それなりに歴史に残したい批評論集は書肆山田から出版し、下世話な職業的自分史はどこかの小出版社から」という目論見は、前述のように大泉さんのご逝去によって閉ざされた。そして、それは短絡的な代替案に結び付く……つまり、面倒だからどちらも自分で出版するぞ、ということに。

そこでまずは『非出世系』刊行の話を、『さよならデパート』を印刷した山形市の（株）中央印刷の社長・後藤卓也さんに持ち込んだ。後藤さんは自社でも「阿古耶書房」という出版事業を展開している。

後藤さんは、本の製作に関わる基本的なことからISBNコードの取得、それに県内書店での販売に関する情報まで丁寧に教えてくださり、そのうえ本が完成した日には県内８店舗と仙台市に２店舗を展開する「八文字屋」書店の役員に直接電話をして、筆者（高安書房）が訪ねるのでよろしく、と根回しまでしてくださった。

八文字屋書店本部の仕入れ担当者を訪ねると、この方が『非出世系』の内容を見て「これなら売れそうな気がする。うちの店だけでなく他の書店にも配本したら。」と、同社の子会社で県内各書店に配本している「（株）山形県教科書供給所」の担当者を紹介してくださったのである。

そうこうしているうちに幸運が舞い込んだ。ダメもとで新聞各紙の文化担当に本書を送っていたところ、共同通信社が「各地の本」という小さな書評欄で本書を取り上げ、書影つきで全国各紙に配信してくれたのである。（これは記者の手になるものだが、なかなかの名文だった。）

各県の地元紙に掲載されたこの新刊紹介を見て、全国からポツポツ注文が来た。読者や書店からの注文（その殆どは１冊だったが）をメールやFAXで受け、逐一取引条件を確認しては包装し、出勤時に郵便ポストにスマートレターを投函する作業は面倒でも楽しかった。読者や書店員の方々とのやり取りは大事なコミュニケーションだと感じた。

地方・小出版流通センターと契約するまで

さて、こうして始めた素人出版。儲からないのだから、なるべく経費を掛けないことを優先した。出版情報登録センターに書誌データを登録（有料）すると、ホームページは商用でも無料のブログで間に合わせ、書店からの受注はこれも無料のBookCellarを利用させてもらう。高安書房のブログは閲覧者が極めて少ないので、高啓が2004年からチマチマと続けている「詩と批評（高啓）」（んだ！ブログ）にも関連記事を掲載して、前者への誘導を図っている。

ただし、このように他人の褌でばかり相撲を取ろうとすればしっぺ返しにも遭うものである。Amazon、楽天ブックス等々のネット書店に勝手に書肆データが掲載され、注文のボタンを押すと「販売休止中」、「お取り扱いできません」などと表示される事態となった。しかも、ある人物がYahoo知恵袋に「最近新聞の新刊紹介欄でみた『非出世系県庁マンのブルース』が書店や図書館にありません。入手する方法はありませんか？」と質問したのに誰かが「ネットショップで買えない？」と反応し、「Amazon、その他でも取り扱い無しです。」、「そうなんですか。新聞の新刊紹介で入手が難しい本は取り上げないと思ったのですが。」と、いい加減なやり取りをしてくれた。これを読む人は「あ、買えない本なのか」と思ってしまうだろう。筆者が気づいて「高安書房は直販です。ネットで検索しＨＰからメールで注文してください。」と書き込もうとするものの、すでに回答期限は経過していて書き込みできない。「迷惑なので削除するか改めて回答を記載させてほしい」と苦情を書き込んでも、Yahooからは梨の礫。この記述は削除されないまま、こうして地方・小出版流通センターと契約してAmazonその他のネットショップでも購入できるようになった現在も、まだネット上に残り検索で表示される。

新刊・高啓著『切実なる批評―ポスト団塊／敗退期の精神―』について

高安書房の第二作は、オウム真理教、兵頭正俊『全共闘記』、アンダーグラウンド以降の演劇論、映画「ノマドランド」、連合赤軍事件、テロリズム、転向、戦後民主主義教育などを扱ったちょっと硬派な批評集である。1975年に23歳で自死した詩人・立中潤へのオマージュをはじめ、著者自身の精神史を時代精神と交錯させて社会・思想・文芸批評に込めている。

地方・小出版流通センターの弊社ご担当に発行部数を相談すると「〝団塊もの〟は近年何冊も出版されているが、概ね苦戦しているようです。」と

助言をいただいた。けれど本書は〝団塊もの〟ではなく、むしろ団塊世代を批判的に乗り越え〝団塊以後〟の精神を闡明するもの。つまり「今を生きる1952年生まれ以降のすべての世代」が主体の批評である。

できるだけ多くの読者の目に留まるよう「草彅剛のヒトラー」（神奈川芸術劇場「アルトゥロ・ウイの興隆」の舞台評）を所収した。これは『詩的現代』という非商業誌に寄稿したものだが、草彅剛ファンの一部から注目され、掲載号が売り切れになったという。

はてさて、思わぬ成り行きで歩み出してしまった高安書房、スイスイスーダラダッタ♪とは行きそうにないのですが、どうぞご愛顧をお願い申し上げます。

＊

（たかはし　けいじ／高安書房代表）

新刊ダイジェスト

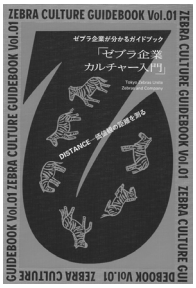
表示されている値段は本体価格となっております。ご購入には別途、消費税がかかります。

『モールの想像力　ショッピングモールはユートピアか』●大山顕 監修・編

「上着を羽織ってキーをとり部屋を出る。玄関脇のガレージに停めてある車に乗り、近所の道から幹線通りへ合流。昔は一面田んぼだったところにバイパスが通され、物流倉庫や中古自動車屋が並ぶようになった。それらを見るともなく車窓に流し、ほどなく到着するのが目的地。遠いところでは県外から買い物客がくるらしい…」冒頭このように語られる自宅からショッピング・モールへの道筋は、今や私たちの身体に染み付いていて取り立てて意識することもないほどだ。本書は、高島屋史料館TOKYOで2023年3月4日から8月27日まで行われた展覧会『モールの想像力　ショッピングモールはユートピアだ』展を元にしている。モールに関わりがある映画、マンガ、小説、絵画、写真などの作品をとりあげ、それらにおける描かれ方を通じてモールについて考え、同時にモールを通してそれらの作品をレビューするのがこの展覧会のメインだった。今回の書籍化にあたってはタイトルが『…はユートピアか』に変更されている。「だ」が「か」に変更されたのは、モールを無批判に称揚する内容ではないことを強調するため、と監修者で写真家の大山顕氏は言っている。とは言え、ここではかつてのように地域の無個性化や画一化、商店街破壊の元凶といった批判的な文脈でモールが語られることはない。むしろモールは今やかつての古き良き商店街の後継として物質的生活のインフラとなっているばかりでなく、モールネイティブなどと本書で称される若い世代にとっては生活感性や現実意識のインフラとなっていることが知れるのである。本書で取り上げられているヒップホップグループ、その名も「Mall Boys」のメンバーは、あるインタビューで「実家もニュータウンみたいな。だから、田舎以上に逆に何もない風景ではあるんだけど、『オレらには“モール”があるじゃん』って。小さい頃ショッピングモールで過ごした体験って、外国人も含めてオレら世代は普通にみんな共有してるっしょって。」と語っているという。また、現代の日本中の高校生のポートレートを撮り続ける写真家の小野啓氏は、被写体の高校生たちがモールを「フッド」（Hood、地元）としていることにある時気づき、それから本格的にモールの写真を撮るようになったという。モールは今や彼らにとってなくてはならない「街」なのである。そしてこの「街」は、商業、消費のグローバル化がもたらした現象にすぎないとはいえ、イデオロギーも階層も国境も越えている。それも世界中に似たようなモールがある、というのではなく、世界中に「モール共和国」が小さな領土を分散して持っている、というようなあり方で…「モールの想像力」は力を得て、こんなユートピア論へも話が及ぶ。実に楽しい。（N）

◆2000円・A5判・183頁・**本の雑誌社**・東京・202308刊・ISBN9784860114824

『ゼブラ企業が分かるガイドブック「ゼブラ企業カルチャー入門」』●堀江大祐・藤本麻子 編

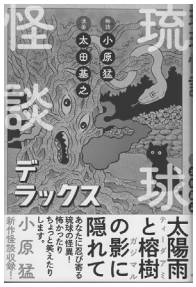


ゼブラ企業とは耳慣れぬ言葉である。ゼブラ（シマウマ）が白と黒の相反する色をまとっているように、企業利益と社会貢献を共存させて、持続可能な成長を目指す経営理念で、2017年にアメリカの女性起業家によって提唱された。当時広がりをみせていた、資金調達を繰り返して急拡大し、市場の独占と自社成長を最優先するユニコーンと呼ばれる企業風潮への批判からであった。わが国でも2019年に、問題意識に取り組み情報発信するユニオンが立ち上がり、翌年にはゼブラ企業の浸透と支援を目的に株式会社Zebras and Companyが設立された。本書は2022年に同社の呼びかけで、わが国のゼブラ企業32社が参加して開催されたカンファレンスの成果集である。福島での農業と女性課題の取り組み、ＰＣの再利用を通した難民就労、徳島県の山間地に起業家たちが作った私立高等専門学校、国内・国際案件を扱う大規模法律事務所、能登の魅力の引き出しを図る酒造、乳房用超音波画像診断装置開発に取り組む東大発ベンチャー、世界史データベースの開発等々、まことに多様である。経営者には若者や女性が多い。

これら経営者が、ステークホルダー主義と成長、利益と社会的課題解決、ジェンダーバイアス、教育と自律的経営などを巡って語り合う。まだ規模も小さく試行錯誤ともいえるが、本質的な豊かさを求める熱量が伝わってきて、社会の変化を予感させられる。（飯澤）

◆2200円・A5判・187頁・**メディアサーフコミュニケーションズ**・東京・202307刊・ISBN9784990739683

『琉球怪談デラックス』●小原猛 著



那覇の国際通りでKさんが知人と飲んだ後、近くの公園のガジュマルの木の下でひと休みしていると、木の中からクスクスと笑い声が聞こえてきた。恐くなって帰ろうとすると、今度は“逃げちゃうの？待ってよ”という声がして……。

こんな怪談で始まる本書。琉球・沖縄では不思議な怪異を“ムン”といい、マジムン、ヤナムンなど、いわゆる魔物、もののけ、妖怪などの存在は、昔からの口承だけではなく、現在でも実際出逢った体験談として語られている。日本各地に怪談話は多々あれど、沖縄のそれは他の地域とは異なる雰囲気を醸し出し、奇妙な話がより身近なのは何故なのかと考えると、島々の固有の自然や精神風土に加えて過酷な沖縄戦後、アメリカの統治下を経て、日本復帰という独特の歴史による影響も大きい。御先祖が姿を現わしたり、思いを伝えてきたり、また沖縄戦で無念の最期を遂げた死者の霊の話の他、赤い髪をした精霊キジムナーのいたずらや死者からの電話で命を救われたなど、ちょっと笑えたり前向きになれる話もある。一方で聖域を汚したため行方不明になるという背筋も凍る怪談もあり、畏敬の念の大切さも教えてくれる。　沖縄の怪談収集の第一人者の小原猛と奇妙な人々を描かせたら日本一の漫画家、太田基之のコンビで送るシリーズ4作目。見開き2ページのコミック60編、怪談22編から成り、向こうの世界との境い目を楽しめる、まさにデラックスな怪談集。（Y）

◆1600円・四六判・175頁・**ボーダーインク**・沖縄・202307刊・ISBN9784899824480

『旅先銭湯5 ～風呂まえ食堂、湯あがり酒場』●松本康治 著

新型コロナ流行によりしばらく刊行がお休みだった「旅先銭湯」ですが、3年ぶりに第5号発行となりました。

今回の特集のお題は「風呂まえ食堂　湯あがり酒場」ということで、銭湯の隣または向かいにある飲食店を取り上げています。いやーやっぱり風呂上がりの一杯のビールは格別ですからね。取り上げられているお店のメニューも焼き鳥やお好み焼き・そばめし・町中華など庶民的な物が多いですね。いつものとおり全編カラーなので各地のうまいもんの魅力も写真を通じてしっかり伝わってきます。もちろん銭湯自体についてもたっぷり紹介。近年はどんどんとその姿を消していく銭湯（旅先銭湯には紹介したお店のその後が毎回記載されているのですが、残念ながら閉店のお知らせが結構多いです。）が多い中で、まだまだ頑張っているお店はたくさんありますし、いずれも個性的です。温泉じゃないんだし銭湯なんてどこも大して変わらないとお思いの皆さんもいるかもしれませんが、タイルの意匠が素晴らしいレトロな銭湯もあれば、改装してグッドデザイン賞を受賞した銭湯もあり、そのひとつひとつにオーナーのこだわりが見て取れます。

巻末には全国50の銭湯で販売中という、銭湯トレーディングカードつき石鹸のお知らせが。行かなきゃ手に入らないカードまであるなんてカードコレクターの人にはたまらないですね。ページをめくれば、きっとたまには銭湯に行ってみようかな…と思わせてくれますよ。（副隊長）

◆1500円・A5判・131頁・**さいろ社**・兵庫・202308刊・ISBN9784916052780

地方小出版流通センター　ジャンル別 新刊案内

2023年8月1日～31日
流通センター着

※各ジャンル内での出版社名は所在地の北から南の順に並んでいます。

表示されている値段は本体価格となっております。ご購入には別途、消費税がかかります。

【雑誌】

◆**kappo** vol.125　2023年9月号　プレスアート編　298mm × 230mm　109頁　800円　プレスアート［宮城］　978-4-503-22901-4　23/09

◆**S－style** 9 vol.705　プレスアート編　280mm × 210mm　120頁　500円　プレスアート［宮城］　978-4-503-22919-9　23/09

◆**会津人群像**　No.46　阿部　隆一編　B5　131頁　1500円　歴史春秋社［福島］　978-4-86762-031-1　23/08

◆**歴史と文化**　第32号　栃木県歴史文化研究会編　A4　87頁　2000円　随想舎［栃木］　978-4-88748-425-2　23/08

◆**GREEN REPORT** 524　2023年8月号　廣瀬　仁編　A4　191頁　2800円　地域環境ネット［埼玉］　978-4-909864-56-7　23/08

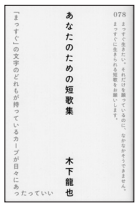
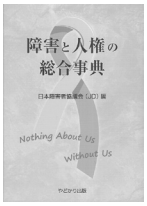
◆**響き合う街で**　No.106　2023年8月号　やどかり出版編　B5　60頁　1200円　やどかり

売行良好書

期間：2023年8月15日～9月14日
※価格は本体価格表示です。別途消費税がかかります。

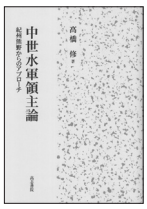
［出荷センター扱い］

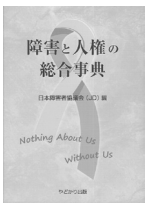
(1)『そらのどうぶつえん』1300円・コミニケ出版　(2)『寺山修司　彼と私の物語』1900円・書肆侃侃房　(3)『東都寄席演芸家名鑑２』1818円・東京かわら版　(4)『あなたのための短歌集』1700円・ナナロク社　(5)『障害と人権の総合事典』2700円・やどかり出版　(6)『出雲と蘇我王国』2200円・大元出版　(7)『情報の歴史２１』6800円・編集工学研究所　(8)『水上バス浅草行き』1700円・ナナロク社　(9)『カメラを止めて書きます』2000円・クオン　(10)『日台万華鏡』1600円・書肆侃侃房　(11)『在日コリアンの文学史　１９２３？２０２３』2000円・ボーダーインク　(12)『まんが長崎の原爆を生きぬいて』1300円・ポトス出版　(13)『黒船前夜　新装版』2200円・弦書房

［ジュンク堂書店池袋店　地方出版社の本―センター扱い図書］

(1)『現代語訳　上井覚兼日記３』2200円・ヒムカ出版　(2)『中世水軍領主論』5000円・高志書院　(3)『カフェボン　仙台』1200円・プレスアート　(4)『障害と人権の総合事典』2700円・やどかり出版　(5)『日本産ゴキブリ全種図鑑』4500円・北海道大学出版会　(6)『埼玉高校野球グラフ２０２３　Ｖｏｌ．４８』1600円・埼玉新聞社　(7)『関東大震災１００年』1500円・新聞通信調査会　(8)『２０２３年版　鹿児島県高校野球データブック　白球に青春かけて』1300円・南日本新聞社　(9)『サルタ彦大神と竜』2000円・大元出版　(10)『自然農・栽培の手引き』2,000円・南方新社　(11)『沖縄の身近な植物図鑑』4500円・ボーダーインク　(12)『沖縄美術論　境界の表現　１８７２～２０２２』2700円・沖縄タイムス社　(13)『上宮太子と法隆寺』2778円・大元出版　(14)『公民館のしあさって』2200円・ボーダーインク





以下ホームページ等でも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。
ＵＲＬ：http://neil.chips.jp/chihosho/　　ツイッター公式アカウント：@local_small

トピックス ―― ★★★

▼アメリカの図書館（博物館も含む）の役割について、アメリカ的民主主義のすばらしさをレポートする本に出会いました。移民大国のアメリカで、産業のふか器として住民の言葉や技術の修得に公共図書館が果たしてきた役割は多大なものがありますが、それが1990年代の情報化時代を迎え、トランプ的選挙に代表されるような国民の分断化が進む中で、民主主義を守り発展させる上で重要な役割を担っていることが伝わってきます。**豊田恭子著【闘う図書館―アメリカのライブリアンシップ】**（筑摩書房刊2022年10月刊）です。アメリカの図書館はそれが属している自治体から予算を得ていたのですが、それだけでは、新しい図書館を建設してあらゆる地域に図書館サービスを行き渡らせるのは難しく、そのために連邦補助金を獲得しようと活発なロビー活動を行い、その財政基盤を獲得してきました。たとえば、オバマ政権時代により進んだ実例として、オバマケアの受付け窓口になったり、金融危機以後に金融リテラシー教育を普及する拠点になったり、科学・技術・工学・数学といった科学技術教育（STEM教育）の拠点になったり、３Ｄプリンターなどを備えた大人向けのメイカースペース（ものづくり工房）を展開したりしています。これは図書館が地域に根差し、新しい移民や貧困家庭出身の若者にチャンスを与え、それによって公平さ（一律のサービスの提供）というより公正さ（各利用者のニーズに沿った適切なサービスの提供）を実現し、崩壊しそうなコミュニティを再生し、健全な民主主義を呼び戻そうとする活動です。アメリカのライブリアン（図書館・博物館等）の新たなアメリカ型地域民主主義の創出と定着の闘いの歩みが紹介されていて感動的です。日本とは事情が違うと言ってため息をつきたくなりますが、大きな問題提起をしてくれる本です。

（川上記）

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。

honto
ネット通販で地方・小出版流通センター扱い
本がご購入いただけます。
honto.jp
hontoではお客様の読書スタイルにあわせて
電子書籍でも紙の本でもご購入でき、hontoポイントは
ネットでも書店でも使えて、貯められます。
地方・小出版流通センター扱いのご当地本もネットで
ご購入いただけます。
くわしくは honto.jp へアクセスください。